

富所 潤の

◎隔月連載

# FISHIN'GRAPH

フィッシン'グラフ～見て感じて楽しむ沖釣りライフ

## ②③ 東京湾タチウオ 2022

新色に加わり10色のラインナップとなったサーベルマスター船テンヤ。今年の東京湾ではルアー的なカラーチェンジも効果的。①グロー ②ゼブラグローチャート ③ゼブラパープル ④N ブラック ⑤フラッシュゴールド ⑥フラッシュグリキン ⑦N アジ ⑧N イワシ ⑨N アカキン ⑩パープル



◎とみどころ じゅん シマノインストラクター。ティップエギング、メタルステッゲーム、ライトヤリカのほかタチウオなど、船のライトゲーム、「楽しむ釣り」の最先端に行く。

「昨年と違い、まだ、イージーではありません」

夏を迎えつつある今年の東京湾タチウオは、昨年と異なりパターンにはまれば簡単に大型が釣れるような状況ではない、と富所潤さん。

昨年は「バイブレーション」「大きなイワシ」「アタつてからはロングステイ」の組み合わせで釣れた。今年は、そこから一工夫加えないと釣れない。

では、昨年と、どこが違うのか？

①バイブレーションでも、シャクリ幅に大小の変化を加えて探っていくほうがアタリが出る

②バイブレーション中に「止め」を織り交ぜたほうがいい

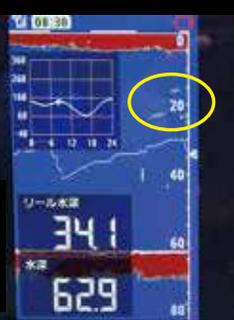
③アタつた後のロングステイで再びアタつてこない



**【フォースマスター 200】**

◎タチウオ釣りにおいて安定した電動巻き上げと手巻き性能は欠かせない要素。その両方を備え、かつ軽量・コンパクトなうえ多彩な機能を持つフォースマスター200は東京湾を始め、あらゆるライトゲームで定番となっている。※右ハンドルの200、左ハンドルの201、201DHのラインナップ。  
 ◎SPEC ギヤ比=82 最大ドラッグ力=5.0kg 自重=395g 糸巻量PE(タナトル)=0.8号-270m 1号-220m、1.5号-150m 最大巻上長=66cm/ハンドル1回転 ハンドル長=60mm 実用巻上持久力=3kg 最大巻上速度195m/分

▶水深60メートルのときに30メートルよりも上に反応が出る。船長のアナウンスと探見丸の情報が大きなヒントになる



**【電動巻き上げ6+省エネバイブレーション】**

91H185でのシャクリの目安。電動巻き上げは6。タッチドライブによる巻き合わせに備え、中間速は23で使用



**テンヤ寄り**

「サヘルマスターE」最新のタチウオシーン対応。必要最低限を搭載したコストパフォーマンスモデル。テンヤ、テンピン仕掛けはもちろん、ロングステイからバイブレーションまで好みの釣りに対応する5種のラインナップ

**テンピン寄り**

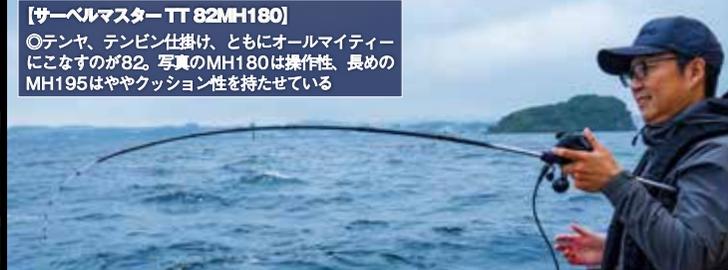
**【タナトル8 サヘルマスター】**

◎昨年深刻化したサババグによる高切れを回避する単色PEライン。漸色にカモフラージュするライムグリーン。密織み構造で表面が滑らか、絶妙なクッション性と色抜け耐久性を持つ



**【サヘルマスター TT 91H185】**

◎バイブレーション釣法に最適な使いやすい91調子。最もテンヤ寄りなモデル



**【サヘルマスター TT 82MH180】**

◎テンヤ、テンピン仕掛け、ともにオールマイティにこなすのが82。写真のMH180は操作性、長めのMH195はややクッション性を持たせている



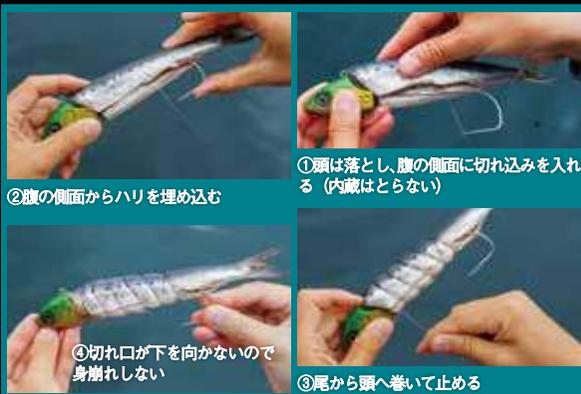
パーミングしやすく疲労を軽減するXシート  
デュアルガングリップは左右対応

**電動巻き上げ6+省エネバイブレーション**

同じパターンが続かないあたり、むしろ面白いと富所さん



▶同じ船団でもジギング船は入れ食いになる一幕も。魚影自体は今年も濃いのだ



②腹の側面からハリを埋め込む

①頭は落とし、腹の側面に切れ込みを入れる(内蔵はとらない)

④切れ口が下を向かないので身崩れしない

③尾から頭へ巻いて止める

**【富所さんのエサ付け】**

「今年が悪いわけじゃないんです。テンピン仕掛けて釣るなら、むしろ簡単なくらいですよ」  
 後半、テンピン仕掛けて遊ぶ富所さん。すぐにアタリを出させ、数回の駆け引きで掛けた。  
 「テンピン仕掛けは小さなモタレからハリ掛かりまで持っていさせる、いわば間接的な味わい深さがあります。一方、テンヤはやはり直接的でダイナミック。どちらが楽しいではなくて、どちらも楽しいですね！」  
 東京湾タチウオ2022・夏は、大物狙いでテクニカルなテンヤ、手軽で数+大物も期待できるテンピン仕掛け、そんな流れになりそうだ。

④テンヤのカラーがゴールドだけでなく、ゴールド&レッド、グリーン、ナチュラル系、強いグローなど、反応のいい色は目によって異なる。  
 ⑤小さなイワシが効果的な日がある  
 新安浦港・こうゆう丸にて猿島沖を狙ったこの日、富所さんは小さく弾くように断続的にシャクリながら、アタリを探る。  
 アタつてくるパターンは、数回シャクって止め、再びシャクリ。この繰り返しで、まずは顔を見る。  
 そして手巻きで、あるいは電動の微速巻きで、巻き上げリズム、あるいは速度を探っていく。  
 「どうやら電動巻き上げ6で、止めを織り交ぜた省エネバイブレーションが一番反応がいいようですね」

**【サヘルマスター TT 73M185】**

◎食い込ませるしなやかさが特徴の73。M185はリズムカルな誘いにも向き、M190は長さによるクッション性も持つ。テンヤではロングステイや電動微速巻きに向く



「これが普通かな。以前の東京湾に戻った感じですよ」  
 周年東京湾のタチウオを狙い続けてきた老舗、こうゆう丸の萩野裕大船長は、これが本来の東京湾だと言う。  
 夏にかけて大型は気難しい日が多く、反面、元氣な小〜中型が果敢にアタックしてくる。テンピン仕掛けなら数が狙えて、時折、大型が交じる。  
 ◇  
 小〜大型が入り交じる東京湾で、大型を狙ったように掛ける富所さん。実はこの「フォースマスター200の電動巻き6+バイブレーション」は今年、他船で、他のアンケラーの間でも、しばしば決まりパターンになっている。



アタリの数なら断然テンピン仕掛け

テンピン仕掛けはサハエサの1本バリ。オモリ50gを併用